

世界の鼓動

田中 均

中東・北アフリカの革命

世界に大きなうねりが来た。1989年にベルリンの壁が崩れる様を目の当たりにしたとき、大多数の人々は、その後について十分予測できたわけではない。しかし、東欧の民主化はすさまじい勢いで進んだ。チュニジアで起きたデモはベンアリ政権を瞬く間に崩壊させ、エジプトのムバラク政権も同じ末路を辿った。リビアのカダフィ政権が国民に銃を向けるのを一刻も早く止めなければならぬ。東欧と同じく、中東・北アフリカ全域で民主化革命が起こるのか。ツイッターやフェイスブックといったインターネット・ソーシャル・メディアは、物価高や失業など国民の大きな不満を瞬く間に糾合し、街頭での大衆運動に変えた。

予先が政権を私物化してきた指導者に向いたのは自然だった。

社会の不正を糾するうえでインターネットの力はすさまじい。腐敗した政権を破壊する力は証明された。しかし、問題は破壊の後である。宗教宗派や部族の潜在的対立が激しく、民主主義的統治の歴史が希薄な中東・北アフリカで、民主主義的政権が定着していくだろうか。これらの諸国がもし宗教・人種間の対立を繰り返した旧ユーゴスラビア崩壊後のバルカン半島、あるいは、独裁政権の打倒が政治的安定に結びつかないイラクやアフガニスタンに倣うなら、中東の石油に大きく依存する

日本も民主化支援を

世界の混迷は容易に想像できる。また、革命がイランのようにイスラム原理主義政権の成立に繋がれば、イスラエルとの対立は激化し、米国をはじめとする先進諸国との関係も不安定になるだろう。中東・北アフリカ地域安定の鍵はエジプトにある。エジプトはアラブ世界で最大の人口を有し、歴

史的にも文化的にも地域の大国である。スエズ運河は世界の大動脈だ。幸い、軍が比較的中立の立場を維持している。イスラム過激派勢力をどう扱うかという難しい問題はあが、安定した民主主義的政権を打ち立てられれば、エジプトは地域の大きな求心力となる。東アジアには、穏健なイスラム

教国で民主主義統治を定着させてきたインドネシアの例がある。インドネシアは、スカルノ政権を軍事クーデターで打倒したスハルト政権が権力の私物化と腐敗を糾弾されて崩壊した後、徐々に民主主義的統治を実現してきた。インドネシアは多様な民族を有する多重価値の国だが、スハルト後は軍



画・onyx

やイスラム宗教団体が穏健な立場を維持してきた。エジプトがインドネシアやトルコのように穏健な民主主義的イスラム教国に軟着陸するのが、最も好ましい。

日本を含む国際社会はエジプトと積極的に対話し、民主主義的体制への支援を倍加すべきである。とりわけ大衆運動の引き金となった貧富の格差を是正させ、若年失業を緩和し、教育を充実するなど、経済社会面での思い切った支援を集中すべきだろう。

軍事独裁政権から民主主義体制に移行して四半世紀で大きな成果を上げているのは韓国だ。民主化の時期に外務省で韓国を担当していた、民主的で世論に左右されやすい韓国と軍事政権のどちらが親日的だろうか、と議論したのを思い出す。韓国はいまや世界で15番目の経済大国であり、先進民主主義国の仲間入りをしている。日本は民主国家・韓国と成熟したパートナーシップを築きつつある。

中東・北アフリカ諸国が民主化のプロセスを進めることは、短期的に著しく安定を欠く可能性はあるが、中長期的には国際社会を益する。日本も民主的改革を支持し、チュニジアやエジプトなどでの民主的政権の確立を全面的に支援していかなければならない。

(たなか・ひとし) 日本総研国際戦略研究所理事長